

サイドチェッカーゲージ

モデルG1・2-10 サイドチェッカーゲージ

ワーク基準面径 3.1～25mm用
 ワーク基準面径 2.8～3.1mmの場合は#150-10トップローラーをご使用下さい。
 ワーク基準面径 2mm～2.8mmの場合は#145-10トップローラーの使用が必要となります。
 ワーク基準面径 2.0mm以下の場合はゼロ径3点ローラーの使用が必要となります。
 (詳しくはP16・17・18メインローラー、トップローラーをご参照下さい。)

標準アクセサリ-:#306-10アームヨーク、#332-00サイドインジケータークャリアー*、
 #398-00タイミングベルトドライブシステム、メインローラー及びトップローラー
 *(G2型の場合は#349-00バーチカルダイヤルゲージキャリアーとなります。)

モデルG1・2-20 大口径ワーク用サイドチェッカーゲージ

ワーク基準面径 10～50mm用
 標準アクセサリ-:#307-20アームヨーク、#332-00サイドインジケータークャリアー*、
 #398-00タイミングベルトドライブシステム、メインローラー及びトップローラー
 *(G2型の場合は#349-00バーチカルダイヤルゲージキャリアーとなります。)

モデルG1・2-40 超大口径ワーク用サイドチェッカーゲージ

ワーク基準面径 20～102mm用
 標準アクセサリ-:#308-40アームヨーク、#333-00サイドインジケータークャリアー**、
 #399-00タイミングベルトドライブシステム、メインローラー及びトップローラー
 ** (G2型の場合は#350-00バーチカルダイヤルゲージキャリアーとなります。)



モデルG1-10/110-10FP
 (横振れテストインジケータークャリアーをサイドインジケータークャリアーにセットしワーク端面の直角度を測定)



モデルG2-10/110-10FP
 (ダイヤルゲージによりワーク外径の振れ測定)

これらのゲージはテストインジケータークャリアーをゲージのサイドインジケータークャリアーに取り付けてワークの側面より振れ、端面の直角度等を測定するように設計されております。(G1シリーズ)

側面計測用のインジケータークャリアーの代わりにバーチカルダイヤルゲージキャリアー、ローラーバーチカルダイヤルゲージキャリアー等によりダイヤルゲージを取り付けて外径の振れの測定を行う事も出来ます。(G2シリーズ)

標準モデルの測定精度は2.5～4ミクロン、精密モデルの測定精度は1.2～1.8ミクロンです。又ダイヤルゲージキャリアーを水平方向にセットしてワーク端面の直角度をダイヤルゲージに依り測定する事が出来ます。

	ワーク径	ワーク長さ	ゲージ長さ	ゲージ幅	ゲージ重量
G-10	3.1～25mm*	102mm	267mm	114mm	3.2kgs
G-20	10～50mm	152mm	318mm	114mm	4.4kgs
G-40**	20～102mm	203mm	368mm	152mm	7.0kgs

*ワーク基準面径 2.8～3.1mmの場合は#150-10トップローラーをご使用下さい。
 ワーク基準面径 2～2.8mmの場合は#145-10トップローラーをご使用下さい。
 ワーク基準面径 2mm以下の場合はゼロ径3点ローラーの使用が必要となります。
 **G-40型には精密モデル仕様はありません。